

復興農学会第2回研究会 公開シンポジウム

耕作地の表層土喪失等の土壤劣化が農業生産や土壤環境に与える影響とその復興

－世界の状況から福島を見る－

2023年3月18日(土) 13:30～15:30 福島大学講義棟

世界では10年以上前から、様々な災害や人為的な行為によって土壌の作土層が失われたり変質したりする土壤劣化が広範囲に発生し、作物生産に大きな影響を与えることが危惧され、様々な対応が始まっている。一方、原子力災害を被災した日本では、福島県の浜通り地域で放射性セシウムにより汚染された農耕地の作土層が、除染のために大規模に取り除かれて喪失し、山土等に置き換えられている。これも土壤劣化の範疇に入る。

では、世界では、作土層が喪失したような土壤劣化に対してどのように対応し、農業生産を持続させようとしているのだろうか。世界の対応と、福島の対応を比較し、福島における土壤劣化からの復興法を探る。

【座長】 横山 正 (福島大学食農学類特任教授)

【コメンテーター】 溝口 勝 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授, 復興農学会副会長)

時刻	演題	話題提供者
13:30	土壤劣化：そのメカニズムと修復	小崎 隆 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
14:00	福島県川俣町山木屋地区での土壤劣化からの復興の現状	八島 未和 (千葉大学大学院園芸学研究科講師)
14:30	福島県富岡町・大熊町での緑肥利用による土壤劣化からの復興の現状	佐藤 孝 (秋田県立大学生物資源学部教授)
15:00	総合討論 テーマ：世界と福島で起きている農耕地の土壤劣化からの復興の方向性	

本シンポジウムは、復興農学会第2回研究会・総会参加者以外の方もご参加いただけます。一般公開で、対面とリモートによるハイブリットで開催されます。リモートによる参加は下記 URL にアクセスし、必要事項を入力してお知らせください。リモート参加時の接続方法は2月下旬以降、登録された連絡先宛にお知らせします。

Google フォーム：<https://forms.gle/QUcddaRWDSG2cDV78>